# 天橋立名松リバースだより

No.14
2006年4月号

編集・発行
天橋立名松リバース実行委員会事務局

## ■天橋立名松リバースフォーラム 第2弾「藤本義一氏を囲んで」開催

### 3月21日(祝) みやづ歴史の館 於

### 「文殊菩薩」(制作中)特別出品!

満席の会場

完成間近な「文殊菩薩」像

去る３月21日、みやづ歴史の館文化ホールにおいて午後７時30分より「天橋立名松リバースフォーラム　第２弾・藤本義一氏を囲んで」が開催され、祝休日にもかかわらず、多くの方々にご参加いただきました。

幾世実行委員長の開会の挨拶の後、早速藤本先生のご講演に入り、人と人のつながりの大切さや人情の機微について熱弁を奮っていただきました。鋭い人間観察をもとにした、適確なご指摘に納得したり、時には会場内を大きな笑いの渦に巻き込んだりと、あっという間に時間が過ぎてしまい、さすが直木賞作家だと実感させられました。

引き続いてのリバース鼎談には、藤本先生に加えて智恩寺の萩原ご住職にも参加いただき、幾世実行委員長を聞き手にリバース活動について、また、環境保護や今後の天橋立の街づくりについて等、幅広い話題でお話をお伺いすることができました。藤本先生も萩原ご住職も負けず劣らず豊富なご経験や深い知識をお持ちで、尽きることのないお話のやりとりに主催者側としては時間配分のあまりの短さに大変失礼なことをしたと冷や汗ものでした。

智恩寺　萩原顕士住職

京都伝統工芸専門学校 須藤教授

作家　藤本義一氏

その後の第二部では、がらりと雰囲気を変えて宮津女声合唱団によるコンサートを楽しんでいただき、昨年夏のチャリティーコンサートでパワフル、ソウルフルなパフォーマンスを見せてくれた神山慶子さんをゲストヴォーカリストに再び迎え、合唱曲「カムバック・フォレスト」を初演していただきました。昨年のコンサートでこの曲を知った合唱団の方が、ぜひ私たちも歌いたいと熱望され、早速アレンジをお願いし練習を重ねられ、この度の演奏会に間に合いました。皆さんの熱意のリレーが成しえたことと思います。これからも、この宮津の地でも歌い継がれていくことを心から望みたいと思います。

今回のフォーラムにはもうひとつ目玉がありました。それは当日にホールのステージ上に設置されていた文殊菩薩像です。疾風吹きすさぶ中で悲鳴を上げながら倒れていった松たちに再び命を注がんと、京都伝統工芸専門学校の皆さんが心を込めて制作していただいた成果が見事に結集した作品としてご紹介することができました。フォーラムの中で須藤教授に制作に当たってご苦労いただいたことやこの日のために春休みにもかかわらず残ってくれた学生の方たちを紹介していただき、会場の皆さんと共に大きな拍手で感謝の念を表した次第です。この後、文殊菩薩像は古色仕上げされ、５月に智恩寺に安置される予定となっています。いずれにしても、主催者側のスケジュール進行の不手際でご出演いただいた皆様には大変ご迷惑をおかけし汗顔の至りですが、お許しをいただきたいと思います。また、当日お手伝いをいただいたスタッフの皆様にも早い時間から、また翌日にも色々お世話になり心からお礼申し上げます。

鼎談
「松は倒れても生きている」

稲葉副委員長による
中間報告書のPR

ヴォーカリスト神山慶子氏と宮津女声合唱団による「カムバック・フォレスト」の熱唱

■■事務局■■
〒626-0001
京都府宮津市文珠437
天橋立総合事業(株)内
TEL　0772(22)5304
FAX　0772(22)5305
http://www.tango.or.jp/re-birth/

2006年3月25日　朝日新聞掲載

フォーラムで披露された天橋立の倒木マツで制作した文殊菩薩像＝みやづ歴史の館で

## 天橋立の倒木 文殊菩薩像に

### 再生フォーラムで披露

04年10月の台風23号で倒木した天橋立のマツで制作した文殊菩薩像が完成した。蓮華台に座り、獅子に乗った形で高さ2・7メートルの大きさ。南丹市の京都伝統工芸専門学校仏像彫刻科の江田さおりさん(27)ら31人が、須藤光昭さんの指導を受け6カ月かけて作った。

作家の藤本義一氏を囲んで宮津市鶴賀のみやづ歴史の館文化ホールで21日に開かれた「天橋立名松リバースフォーラム」で、参加した約200人の市民に披露された。藤本氏の講演や萩原顕士・智恩寺住職、主催の幾世淳紀・同リバース実行委員長との鼎談の間、文殊菩薩像は会場横に鎮座して、倒木マツの再生を話し合う雰囲気を盛り上げていた。藤本氏らは「若い人に天橋立を舞台にした映画を撮影してもらっては」などと提言。歌手の神山慶子さんと宮津女声合唱団が、テーマソングの「カムバック・フォレスト」を会場の聴衆と一緒に合唱した。

2006年3月23日　京都新聞掲載

京　都　新　聞

## 藤本さん、まちづくり提言

### 天橋立の松再生へ 宮津でフォーラム

2004年の台風23号を教訓に、自然との共生や天橋立の未来を考える「天橋立名松リバースフォーラム」が21日夜、宮津市鶴賀のみやづ歴史の館で開かれた。作家の藤本義一さんが、復興を機に目指す、魅力あるまちづくりについて提言した＝写真。

台風で倒れた松の再生に取り組む天橋立名松リバース実行委員会（幾世淳紀委員長）の主催で、市民ら約160人が集まった。

講演した藤本さんは「リバース活動は、天橋立の松を思う人たちが心を寄せ合って実現した。（会場の）みなさんがさらに心を寄せ合い、活動が広がれば、一つの新しい文化が生まれる」と呼びかけた。地元の智恩寺住職、萩原顕士さんらを交えたディスカッションでは「江戸から昭和までどの時代でも絵になる天橋立を舞台に、どんどん映画を撮ってもらえばいい」や「『天橋立エンジェルブリッジ』などの新しい名称を作ってみては」などの意見があり、参加者らは熱心に耳を傾けていた。

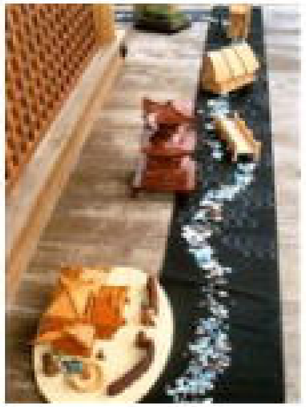
## ■天橋立名松リバース協賛事業　フォーラム第２弾　同時開催
## 〜宮津焼陶芸教室　作品展〜

フォーラム当日、午前10時から午後４時まで、智恩寺境内　無相堂に於いて、宮津焼陶芸教室主催の「ふるさと」をテーマにした第２回　作品展示発表会も開催されました。

また、智恩寺所蔵の細川家ゆかりのお茶碗なども展示され、観光に来られていた多くのお客様にも喜んでいただきました。

リバース実行委員会も、リバース中間報告書「松が未来に遺すもの」などの販売・展示PRを行いました。

島村先生を初め、宮津焼陶芸教室のみなさん、ご苦労さまでした。



「ふるさと」をテーマにした見事な作品の数々が展示されました

## ■２月21日(火)　京都府庁 広報プレス　大徳寺黄梅院　訪問

２月21日（火）幾世委員長・松井・稲葉副委員長・幾世（英）・山崎・森創作副部会長が、府庁広報プレス、大徳寺黄梅院を訪問し、作品展応募要項などのPRを行いました。早速、大徳寺黄梅院　小林住職から倒木松に素敵な書をいただきました。

大徳寺　黄梅院
小林玄太住職の書

府庁広報にてプレス

## ■２月26日(日)　宮津商工会議所　創立50周年記念事業　「丹後の宮津でピンときた！」で、名松リバースコーナーを設置

去る２月26日（日）午後１時30分より、宮津会館に於いて、宮津商工会議所50周年記念事業が盛大に行われました。当日、ホワイエにおいて名松リバースコーナーを設置。松材制作作品やパネルなどを展示し、中間報告書の販売を行いました。

宮津会館ホワイエにおいて
名松リバースコーナーを設置

## ■３月１日(水)　正副部会長会　開催　「天橋立名松リバース作品展」　応募要項内定！

去る３月１日（水）午後８時より文珠荘 於、幾世委員長・西川・細井・稲葉・松井・中井副委員長・森創作副部会長・河嶋会計部長・山本事務局長など12人参加の下、懸案の創作応募要項を最終チェックし、決定しました。地元の人、地元外（京都の芸術系大学など）に、幅広く働きかけていくことを話し合いました。

正副部会長会　　2006.3.1

## ■３月３日(金)　第17回　名松リバース実行委員会　開催

去る３月３日（金）午後２時30分よりKTR天橋立駅２階会議室で、第17回目のリバース実行委員会を開催しました。

主たる議題は、リバース作品応募要項の最終決定と21日に予定している第２弾のリバースフォーラムでした。リバース作品応募要項は、創作部　森副部会長より主旨説明があり、了承しました。又、藤本義一氏、神山慶子さんを招いてのフォーラムについて、詳細の調整をしました。メンバーのみなさんから積極的な意見が続出しまし

第18回実行委員会　2006.3.3

■

## 3月6日(月)～7日(火)
## 世界的な水墨画家 王 子江さん、天橋立を初来訪
### 屋久杉の森を守り、「世界自然遺産」にした 柴 鐵生さんも同行、再来訪
### 天橋立名松リバースと交流を深める！

天橋立ビューランドにて

茂原市での「雄原大地」、薬師寺での「聖煌」、北京国立美術館での個展など、100m水墨画家の大家として世界的に活躍されている王子江（おうすこう）さんが、初めて天橋立にお越しいただきました。

超多忙なスケジュールの中ご無理を申し上げ、初めて天橋立に足を踏み入れていただきました。

王さんに「天橋立の絵を描いていただくのが最大の夢ですが、先ず創作意欲を持っていただけたらとの思いで、今回の招聘が実現しました。

当日、王さん以外にも今回コーディネートしていただいた宮本茂樹氏（NPO・Will国際文化交流研究所専務理事）・屋久島の柴鐵生氏・長野県木曽町 田中町長・木曽福島商工会津田会頭・東太鼓センター社長など9名をお迎えしました。天橋立名松リバース関係からは、幾世委員長・細井・西川・稲葉副委員長、創作部会から森・幾世（英）両副部会長・島村顧問・山本事務局長・幾世（健）委員・京都新聞後藤記者・毎日新聞鶴谷記者・宮津青年会議所小室理事長・淡交会宮津支部畑青年部長・京都女子大亀井敦子さんなどが参加し、交流を深めました。

「双龍の松」の前で

6日はご到着後、王さん・柴さんを天橋立公園内・ビューランドへ案内し、翌日は雪舟観展望台・京都府立丹後郷土資料館等々をご案内しました。

王さんは、天橋立に対し強い興味と関心をもっていただきました。

---

松並木を歩きながら「天橋立の松は優しい表情をしていますね」と嬉しそうに言って下さったのが印象に残ります。

今後、私達の“夢”である雪舟以来の水墨画家王さんの手による天橋立画製作が夢でないことをメンバー一同、確信しました。その為にも今後、王子江さんによる天橋立絵図創作サポーターチームを多くの市民に働きかけて、立ち上げていかねばなりません。今から楽しみです。

又、今回の交流を契機に、今後「木曽の檜・天橋立の松・屋久島の杉」をキーワードに、環境ネットワーク作りの構築も熱く語り合いました。夢が実現できるといいですね！

雪舟観展望台にて

※2005年1月に、NHK BS放送で1時間に渡り全国放映された王さんのビデオがありますので、是非ご覧になって下さい。（事務局までご連絡下さい。）

**【主な作品紹介】**

1996年 100m水墨障壁画「雄原大地」 茂原市所蔵
　　　 30m水墨障壁画「過去・現在・未来」 姫路市所蔵
1997年 20m水墨障壁画「人類の愛」 ニュージーランド政府所蔵
1999年 100m水墨障壁画「聖煌」 奈良薬師寺所蔵
2001年 100m水墨障壁画「源流千古」 姫路市所蔵
2003年 30m水墨障壁画「江山如画図」 瀧野町所蔵
2004年 50m水墨障壁画「出雲勝境図」 出雲大社所蔵
2005年 水墨作品「天地斉徳・日月同明」 国立中国美術館所蔵

**【NHKテレビ放送番組】**

- 「100m水墨障壁画～中国人画家と茂原市民」
- 「聖煌・100mを描く～中国人画家 王子江の挑戦」
- 「中国時代の心を描く・王子江100mの水墨画(BShi)」
- 「ETV特集 日中をつなぐ100メートルの水墨画～中国人画家・王子江の挑戦」

倒木松に、王さんの書を2枚いただきました

### 王 子江（おうすこう）さん プロフィール

1958年中国北京に生まれる。父、祖父代々画家で、3歳より天才教育を受ける。中国国立北京芸術学校卒業。北京美術家協会会員。日本美術家連盟会員。1988年来日。1990年『中国当代国画家辞典』に最年少で掲載さる。『王子江画集』出版(東京)。1991年旺玄会第57回、59回展受賞(東京都美術館)。亜細亜現代美術第27回展受賞。1993年東京国際芸術祭TIAS(晴海)93に出展。1994年奈良薬師寺に水墨画作品「日月同輝」が収蔵される。1996年千葉県茂原市立美術館に水墨画作品「雄原大地」(約2m×約100m)製作収蔵される。その制作風景は、NHKテレビ、日本テレビ、フジテレビ、山梨県テレビ、千葉県テレビで放映される。又、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、共同通信の取材を受け報道される。薬師寺「聖煌」100m水墨壁画完成。2004年11月北京国立美術館で個展(中国以外で活躍される芸術家として初めての企画)。1996年4月7日はNHKテレビで45分間ドキュメンタリー、2005年1月NHKBS放送で1時間全国放映される。

【個展】＝米国ヒューストン・米中教育訪華センター、神戸市ゴーフルアルデアギャラリー、大阪タイムス谷町ギャラリー、川上画廊(銀座)、藤屋画廊(同)、柏木画廊(新宿)、近代美術クラブ(京橋)、鹿友アートサロン個展(同)、瑞牆山荘個展(山梨県)。

2006年3月　京都新聞掲載

# 北斗星

## 観光はまちの総合力

2006.3

幅百㍍の水墨障壁画などで知られる中国人画家・王子江さんが宮津市を訪れ、先日、地元主催の「王子江さんを囲む会」に記者も出席させてもらった。この席、台風23号で被害を受けた天橋立の松再生運動が縁で当地を訪れていた屋久島（鹿児島県）の保護活動に取り組む柴鐵生さん（六三）の姿もあり、幸運にも話を聞くことができた。

柴さんは青年時代、伐採で失われていく屋久島の原生林を守るため、東京から帰郷。林業で生計を立てる島民の暮らしと自然保護のはざまで悩みながら、活動に力を注いだ。一連の取り組みはテレビ番組にも取り上げられ、感動を呼んだ。

柴さんは現在、世界遺産にも登録された屋久島の観光協会会長を務める。屋久島観光協会は、屋久町と上屋久町という自治体の枠を超えて関係者が集まり、日本の誇る自然の魅力を人々に伝えている。

地元に視点を戻せば、三月一日に「与謝野町」が誕生した。各町の観光協会は合併を視野に入れるが、先行きは不透明との声も聞く。柴さんは言う。「観光協会の在り方はそれぞれ違うが、自分たちの利益を考えるだけの組織は許されない。観光はまちの総合力がなによりも大切」と。

（宮津支局　後藤創平）

2006年3月7日　京都新聞掲載

100㍍の水墨障壁画の画家・王さん

# 天橋立の自然 散策

## 住民らと交流温める

初めて訪れた日本三景・天橋立を散策する王さん㊧（宮津市）

2006.3.7

幅百㍍の水墨障壁画「雄原大地」の制作などで知られる日本在住の中国人画家・王子江さん（四七）が六日、宮津市の日本三景・天橋立を訪れた。松並木を散策して地域の自然に触れ、地元の観光関係者らとの交流を温めた。

王さんは中国・北京出身。国立北京芸術学校を卒業し、一九八八年に来日した。「中国当代国画家辞典」に最年少で掲載されるなどの実績を持つ。作品は、千葉県の茂原市立美術館に収蔵された縦二㍍、横百㍍の「雄原大地」や、奈良県の薬師寺に奉納した「聖煌」など、壮大なスケールで知られる。

今回は、地域活性化に取り組む地元の旅館経営者らの誘いで訪れた。午後に到着した王さんは、股のぞきで有名な天橋立ビューランドや松並木を散策。「松の形が素晴らしい、中国の松に比べて優しいイメージ」と印象を話し、景色をカメラに収めていた。天橋立では一昨年の台風23号で百九十三本の松が倒れており、倒れたままの姿で残されている樹齢約三百年の「双龍の松」前では、「人の力では無理。自然の作品」と驚いていた。

## ■3月8日(水)「みつばつつじ和飲塾」の総会で 天橋立名松リバースのお話

去る3月8日、みつばつつじ和飲塾の総会が、清輝楼 於 開かれ、天橋立名松リバースの報告をさせていただきました。大橋清子会長様から、以下の寄稿文が届きましたのでご紹介します。

清輝楼 於

一昨年の秋、台風23号の襲来で、天橋立の松が二百本余り倒れるという大変な被害を受けた。

宮津市民にとって、象徴であり、誇りであり、懐かしい故郷である天橋立が大変なことになったわけだが、その時、和飲塾のメンバーの多くが我が家の床上浸水その他数々の被害に打ちのめされ、自分たちの暮らしを立て直すのが精いっぱいだった。最近、暮らしも落ち着いて来たところへ、チャリティコンサートで素晴らしい歌を聞き、テレビで倒木で菩薩像を刻まれていること、又、ふるさとの宝として倒木で作られた灯籠が紹介されているのを見て、私達も何かしなければ―それには先ず天橋立の現状は？名松リバース運動とは？といった基本的な事を勉強しようということになった。早速三月の総会でのご講演を、幾世実行委員長にお願いして快諾を頂いた。

委員長はスライドを使って、台風後の天橋立のようす、名松リバースの会の人達の活躍ぶり等を話してくださった。今後の活動として、天橋立の生物、歴史、文化的な背景を研究して、今後の町作りの在り方を考える、又、天橋立公園ビジョンを提言して行く等、大きな夢を力強く話して下さいました。

私達、和飲塾のメンバーの心にも、昔を懐かしんでばかりいたり、現在に不満を持つばかりではなく、未来の宮津や天橋立の将来のために、なにかしなければという熱い想いがいっぱいになっていった。

## ■3月9日(木) 京都府主催 第4回「天橋立周辺景観まちづくり」と 第4回「天橋立公園の松並木と利用を考える会」 合同会議開かれる

右記会議が、みやづ歴史の館で開催され、リバース関係から天橋立を守る会 森会長・幾世実行委員長・松井・西川副実行委員長・山本事務局長・伊藤樹木医会長などが参加しました。

「天橋立公園の松並木と利用を考える会」は、第4回が最終会議になりましたが、ゲストハウス建設構想や天橋立の価値を高める意義等々、今後の天橋立公園のあり方を考える上において意義ある会になりました。詳しくは次号に内容を掲載します。「天橋立周辺景観まちづくり」の会は、今後も継続されます。

## ■3月9日(木) 京都伝統工芸専門学校 訪問

3月9日（木）午後5時30分、智恩寺萩原住職・幾世委員長・西川副委員長の3人で、製作中の「文殊菩薩」の御礼に学校訪問をしました。松村校長先生や学生さんも迎えていただき、苦労話も聞かせていただきました。２ｍ70㎝の高さ、出来栄えの見事さに、３人とも感激しました。

その後、校長先生と開眼供養の日程について打ち合わせをし、５月14日（日）に内定しました。

２ｍ70ｃｍもの高さの
立派な「文殊菩薩」像
智恩寺 萩原住職さんも
感激！！

## ■3月22日(水) 傘松公園に倒木松で作ったベンチを設置

京都府丹後土木事務所より、天橋立公園内に設置されるベンチの製作依頼があり、先般、傘松公園の第二傘松休憩所付近に二基を設置いたしました。

傘松公園へ行かれたときに、是非ご覧ください。

## ■3月24日(金) 第6回「京都観光ブランド推進研究会」 開かれる

第6回 京都観光ブランド推進研究会が、京都市内で開催されました。今回はフリートーキングで各メンバーから様々な意見発表が行われました。幾世委員長が出席しましたが、天橋立の場合、その価値を高めると同時に松をブランド化することの必要性をあらためて教えられました。

## ■3月10日(金) KBS京都「ふるさと発！希望号」
## ■4月1日(土) KBS京都 地域情報番組「de ちゅう」

名松リバースの活動について、KBS京都から取材があり、以下PRさせていただきました。

3月10日「ふるさと！希望号」
飛鳥井雅和アナウンサー

4月1日
地域情報番組「de ちゅう」

## ■4月2日(日) 第31回 クリーンはしだて 一人一坪大作戦に市民 約1,200名 参加！

続々と市民が…

天橋立を守る会・天橋立観光協会・宮津青年会議所など、市民参加型の第31回クリーンはしだて一人一坪大作戦が、今年も午前9時より実施されました。大雨の予報が出され心配されましたが、お陰さまでくもり空となり、親子連れなど1200名を越える市民が参加し、天橋立があっという間にきれいになりました。みなさん本当にご苦労さまでした。

## ■松の悲鳴がよろこびに！

速報 Part 1

### ◎倒れた松が、町なか(府中・文珠・宮津)の景観ベンチに！
**ー4月1日現在、42個製作中ー**

### ◎天橋立文珠繁栄会がプランターを100個製作中 文珠地区の各所に設置されます

天橋立名松リバース実行委員会では、「松の香りただようまちづくり」を提唱していますが、町なかに天橋立の松が姿を現しつつあるのが、何より嬉しいことです。

今後のまちづくりにとって、今こうしたひとつひとつの努力の積み重ねが、どんなに大切なことかと痛感しています。

速報 Part 2

### ◎倒れた松がお茶の世界に！

**裏千家淡交会 宮津支部のみなさんが、500個の「お千菓子盆」を製作決定！**

淡交会宮津支部の高岡昭子（宗昭）さまから、以下の、寄稿文が届きましたのでご紹介させていただきます。

悠久の昔、この地に魅せられて天の神々が舞い降りて来られたというこの天橋立に、何百年の時を刻み、人々の心を癒してくれた193本の名松が、一昨年の台風で無惨にも千々に裂けなぎ倒されてしまいました。

その一本一本から松の"かなしみ"を聴いているうちに、この"かなしみ"を"よろこび"に変えることが出来ないものかと考え、たまたま九月二十四日に宮津ロイヤルホテルに鵬雲斎大宗匠（ほううんさい だいそうしょう）さまをお迎えして開催される「裏千家 淡交会 宮津支部創立六十周年」の記念品の千菓子盆にしてはどうかと思いつき、早速、幾世委員長様の応援を得て試作しましたところ、会員の皆様から大変好評を戴き、記念品としてとり上げていただくことになりました。

お盆の一個一個が、それぞれの異なった景色（表情）をもっている愉しさに加え、この円相の中の年輪の一つ一つが、五〇〇名の皆様のお手元に届いたあと、神遊々の地で生き続けた歳月を語り継いでくれそうに思うのです。又、そうあって欲しいと、こよなくこの地を愛する者の願いでもあるのです。

名松のひとり

裏千家 淡交会 宮津支部
創立60周年記念品のお千菓子盆

2006年3月24日　京都新聞掲載

設置された倒木松を活用したベンチ
（宮津市大垣・傘松公園）

# 天橋立の倒木松でベンチ

## 宮津の傘松公園

## 憩いの場提供

宮津市大垣の傘松公園に、一昨年の台風23号で倒れた天橋立の松を活用したベンチ二基がこのほど設置され、観光客に憩いの場を提供している。

ベンチは長さ一・九㍍、幅四〇㌢。松の丸太の上に平らな座板を載せている。設置場所はケーブル傘松駅から西に階段を上がった、天橋立を北から臨む展望広場。府丹後土木事務所が、松林の再生や倒木の有効利用に取り組む「天橋立名松リバース実行委員会」に発注して製作した。台風で倒れた松は百九十三本。実行委が保管し、炭や灯籠などに生まれ変わったほか、京田辺市にある江戸中期の農家、澤井家住宅（重文）の改修にも使われた。府は、今後も松材の可能性を模索、天橋立の松にふさわしい形で活用するという。

2006年3月3日　京都新聞掲載

3月3日

# 天橋立から「環境救え」

## 宮津の実行委　展示企画、作品募る

天橋立の倒木松に書をしたためた額の作品

## 台風23号倒木松など自由に

一昨年の台風23号で倒れた天橋立（宮津市）の松再生に取り組む天橋立名松リバース実行委員会（幾世淳紀委員長）が、松や自然、地球環境へのメッセージを込めたアート作品を集めた展示を企画している。倒木松を利用したものに限らず、写真や小説、パフォーマンスなど、有形無形の自由な作品の出展を呼びかけている。

天橋立の松は、台風23号の強風などで百九十三本が倒れた。台風をはじめ、世界各地の異常気象で破壊される自然について一人一人が考え、自分ができることを自分のスタイルで始めてほしいと願い、企画した。

作品の内容は、クラフトや絵画、短歌・俳句、映画や楽曲など自由。倒木松を使った作品づくりを希望する人には、松を無償で提供する。

「天橋立名松リバース作品展」と題し、十月に天橋立公園などで展示する予定。趣旨に賛同し、これまでに贈られている倒木松に書をしたためた額なども並ぶ。同実行委は「多くの人に趣旨が伝わり、活動の輪が広がってほしい」としている。

応募点数の制限はないが、大きさは縦・横二㍍、高さ三㍍以内。締め切りは八月三十一日。問い合わせは同実行委事務局☎0772(22)5304。

2006年3月8日　京都新聞掲載

京都新聞　2006年（平成18年）3月8日　水曜日

# 「松」生かしたブランド確立を

## 「天橋立」観光アピール不足解消へ

### 京女大生　卒論で提案

京都女子大（京都市東山区）の四年生がこのほど、観光地としての天橋立（宮津市）が抱える問題点や住民活動が導く地域活性化について考察した卒業論文をまとめた。数値化された全国の観光地の魅力度と比較し、客観的に課題を指摘。観光資源のアピール不足を解消するため、松を愛する地域がつくる「天橋立ブランド」の確立が再生の鍵と訴える。

同大現代社会学部の亀井敦子さん（二二）＝京都市左京区＝。母親が宮津市出身であることや、一昨年の台風23号以来、懸命に復興に取り組むまちの姿を見て、題材に選んだ。

論文では人口減や少子高齢化が進む同市の傾向や日帰り客の増加ほど宿泊客が増えていない現状などを指摘。

さらに、観光地の魅力度を数字で客観的に算出した国際評価基準を活用。日本三景という観光資源を持っているにもかかわらず、尾瀬（群馬県など）

卒業論文で、観光地としての天橋立の課題や再生策をまとめた亀井さん（宮津市文珠）

### 魅力度数値化　全国と比較

や那智勝浦（和歌山県）などの自然観光地に比べて▽観光資源の種類やオリジナリティーが低く、個性不足▽「居心地の良さ」の項目が低く、清潔感や景観・環境の良さが散策の楽しさに結びついていない－などの実態を明らかにした。

解決策として、地元の天橋立名松リバース実行委員会の活動を一例に挙げ、倒れた松を使った同会の「松の香り漂うまちづくり」は、統一感ある観光地をつくり、地域間競争に勝ち抜くブランド形成につながるとした。

亀井さんは「『住んでよし、来てよし』といわれるまちづくりが必要。松並木を愛し、誇りを持つ人たちがいる限り、観光地としてさびれることはないと思う」と話している。

※　右記の論文、天橋立名松リバース実行委員会にも寄せていただきました。
亀井さんは、昨年10月20日の炭づくりにも参加し、汗しながら執筆された力作です。
若い女性からみた天橋立への提言を是非ご一読ください。
特に若いみなさんには、ぜひ読んでいただきたいです。
ご希望の方は、事務局へご連絡ください。

# ご案内

## フラメンコの世界をふたたび！

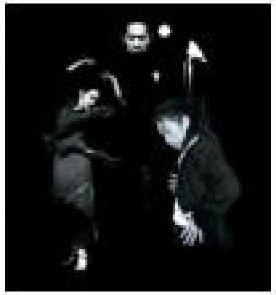
昨夏8月31日に宮津会館で開催されました「天橋立名松リバース チャリティコンサート」にご出演いただきましたアーティストの皆さんによるフラメンコの世界は、激しく、切なく、愁いを秘め、850余名の方の心を一気に魅了しました。このたび、国内有数のアーティストが集まり、下記のコンサートが京都で開催されます。ギターには、宮津市出身の尾藤大介さんもご出演されます。是非とも、多くのみなさんにご参加いただきたくご案内いたします。

### concicrt de baile flamenco
### ～SENTIDO～

フラメンコの礎となる感覚をヒターノ（ジプシー）は、Sentido(センティード)と呼ぶ。この深い世界観を伝えるべく国内有数のアーティスト達が京都に結集。

◎出演
・踊り　稲田　進氏、影山奈緒子氏、
井山直子氏
・歌　筧　章子氏、黒田紘登氏
・ギター　有田圭輔氏、藤井祥子氏
・カホン　尾藤大介氏、ハイメ吉川氏
朝本一也氏

◎曲目
タンゴ、アレグリアス、
タラント、
シギリージャ、他



◎日時　4月28日(金)
午後7時～
◎場所　京都府立文化芸術会館　ホール
◎料金　前売4千円　友の会　3千6百円
当日5千円
◎主催　㈱コンフォート企画

天橋立名松リバース基金
## ご協賛ありがとうございました
2006年3月分

・京都府仏具協同組合さま　一万七千七円
・㈱きものゑん（畑　伸治さま）　二万円
・聖イエス会　ベテル教会さま
七万円（松メール）
・尾藤大介さま（東京都）　五万円

## ■「天橋立名松リバース中間報告書」配布・販売にご協力を！

ただ今、左記リバースの本を一部 千円で販売しています。全額リバース基金にさせていただきます。ぜひとも配布・販売について、みなさまのご協力をお願いいたします。

事務局へご連絡下さい。

※ 1部 1,000円　リバース基金へ

## ■「中間報告書」販売経過報告
（3月31日現在　640冊）

・文珠自治会さま　百十一冊
・京都府市議長会さま　四十三冊
・みつばつつじ和飲塾さま　二十六冊
・宮津女声合唱団さま　二十二冊
・個人購入　四十五冊
・会員販売　百三十冊

◎各種行事
・「京の景観シンポジウム」にて　十五冊
・大阪「4氏を囲む会」にて　三十八冊
・宮津商工会議所五十周年にて　一冊
・リバースフォーラム第2弾にて　三十四冊

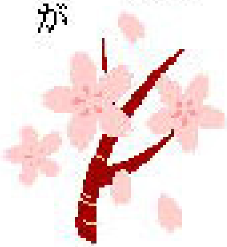
◎旅館協力（客室に入れていただきました）
・ホテル北野屋さま　三十冊　・玄妙庵さま　二十冊
・天橋立ホテルさま　五十冊　・文珠荘さま　五十冊
・茶六別館さま　十五冊　・清輝楼さま　十冊
・宮津ロイヤルホテルさま　百冊

## ■□■ 編集後記 ■□■

桜の季節となりました。今、天橋立公園内の松と山桜が絶妙のコントラストを醸し出しています。

天橋立名松リバースも一年半が経過し、天橋立名松作品募集・フォーラム第2弾の実施など、正念場を迎えています。「木は倒れても生きている」「松の悲鳴をよろこびに！」を合言葉に取り組んできましたが、倒れた松が多くの市民のみなさんのアイデアで、ひとつひとつ形を変え、新しい命が誕生してきていることを本当に嬉しく思います。

京都伝統工芸専門学校のみなさんの大変なご尽力で「立派な文殊菩薩さまが5月14日開眼供養（智恩寺 於）されます。今から楽しみです。淡交会宮津支部のみなさんにも、お茶席をご用意していただけます。



# 事務局日誌

平成18年

3月1日（水）　正副部会長会

3日（金）　第18回　実行委員会

6日（月）　王子江先生（１００ｍ水墨画家）を囲んで

～7日（火）　屋久島 柴 鐵生氏 他 ６名のゲスト（幾世委員長他10名）

8日（水）　みつばつつじ和飲塾の総会にてリバースのお話　幾世委員長

正副委員長会議

9日（木）　第４回「天橋立周辺まちづくり景観」検討会

第４回「天橋立公園の松並木と利用を考える会」合同会議

京都伝統工芸専門学校訪問　萩原智恩寺住職・幾世委員長・西川部会長

10日（金）　ＫＢＳ京都放送　取材

11日（土）　与謝野寛・晶子　歌碑建設発起人会

19日（日）　ＫＢＳ京都放送　「ふるさと発！希望亭」放映

21日（火）　天橋立名松リバースフォーラム第2弾（春分の日）みやづ歴史の館　文化ホール

藤本義一氏　萩原智恩寺住職　須藤教授　神山慶子氏　宮津女声合唱団

宮津焼陶芸教室　作品展（智恩寺　無相堂）

22日（水）　傘松公園に倒木松で創ったベンチ2基を設置

24日（金）　第６回「京都観光ブランド推進研究会」

28日（火）　裏千家 淡交会 宮津支部　資材見学

31日（金）　須津保管所（野間野氏 所有地）の松材を喜多倉庫へ全移転並びに清掃

4月1日（土）　ＫＢＳ京都放送　生中継（de ちゅう）　幾世実行委員（傘松公園）

2日（日）　第31回 クリーンはしだて一人一坪大作戦

5日（水）　第19回　実行委員会

《予定》

18日（火）　宮津ロータリークラブ例会にて講演　幾世実行委員長

21日（金）～23日（日）　旅フェア ２００６　パネル展示（千葉市　幕張メッセ）

28日（金）　フラメンコ　conciert de baile flamenco　～SENTIDO～　京都府立文化芸術会館

5月3日（火）　京都伝統工芸専門学校にて講演　幾世実行委員長（園部）

14日（日）　「文殊菩薩」像　開眼供養（智恩寺）

17日（木）　宮津ライオンズクラブ例会にて講演　幾世実行委員長

18日（木）～22日（月）　屋久島訪問　王子江氏　幾世実行委員長　松井部会長　他